

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島8-31-2
施設名	アスク東大島保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

国旗

〈テーマの設定理由〉

外国籍の園児が増えたことでの相互理解を深めたい。
外国の事について関心を持つ子どもが増え、会話に出るようになったため、国旗を題材にこどもたちと外国への関心を深めていきたい。

2 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする
日本とアメリカの違いや有名な物を知る
さらにアルゼンチンとカナダについての文化や特色を知る。地球儀を使って国の位置を調べ、国旗絵本から国旗の違いを比較する。
国旗には国の文化や特色などを表現しているということを知り、自分の好きな事を描いたオリジナル国旗を作る。
自分の国旗について、何を表現しているか友だちに伝えながらゲームで楽しむ。様々な国の国旗を知る。
みんなで作った国旗を見て考えてみる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

地球儀、国旗絵本、色鉛筆、国旗カード、世界の図鑑、せかいのりょうりの絵本
意見を出し合えるようにサークルになって話したり、友だちの意見や作品を見せやすいように前で発表したりした。
ゲーム感覚で楽しみながら、活動を進められるようにした。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

日本とアメリカの違いや、有名な食べもの・スポーツなど身近な物を題材に活動をはじめた事で関心を持つことが出来た。アメリカの他にも普段あまり馴染みのない国の特色も知った。ゲーム形式にして活動することで楽しみながら興味を持っていた。国旗の意味に触れ、自分の好きな事や得意な事、表現したいことを自由にオリジナルの国旗に描いて表現した。国旗の絵本を参考にする様子があり、さらに新しい国旗を知ろうとしていた。自分のオリジナルの国旗について友だちに発表した。友だちの国旗をよく見て特徴を探すゲームにし、自分の国旗との違いを感じていた。クラスの友だちと一緒に作った国旗と一緒に見ながら、どんな国旗になっているかを考え発表し合う。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

【にじ組】
身近な外国の身近な事柄を知っていくことできっかけとなり、その後様々な国の有名な物や特色などにも目を向け知ろうとしていた。環境として用意した地球儀や国旗の絵本を自ら開き場所を調べ、家でも国旗について調べ国旗絵本を用いてクイズを出し合っ楽しむ姿がみられた。国旗に表現されたいものを知り、自分のオリジナルの国旗を作る活動では難しい子供もいたが、積極的に国旗の絵本を開き、外国の国旗を見ながら意欲的に活動に向かっていた。クラスの友だちと国旗を作る活動では、自分たちの好きな物をたくさん詰め込んだ国旗が出来上がり、にじ組さんらしい賑やかな国旗が出来たと喜び姿があった。

【そら組】
クッキングから始まった活動ということもあり、食べ物からの外国についての紹介に関心を持つことが出来、自分から知っていることを保育者や友だちに話そうとする子供もいた。ゲーム感覚で様々な国旗を知ることを楽しみながら、他の国はどんな国旗かと話す子供もいた。クラス全体での国旗作りでは、話し合いがまだ難しい様子もあり、個人の好きな事を大きな国旗に表現したが、好きな事がたくさん！と喜んで活動していた。他者を認めながら活動できていた。そのことから、クラス全体での国旗作りの活動では、話し合いながら相手の意見を耳を傾け、一つの物を形にしながら作成を楽しんでいた。

【つき組】
外国について自分たちに身近な食べ物やスポーツなどの事柄を知っていくことで、その後様々な国の有名な物や特色などにも目を向け、職員に聞いたり家から調べてきたりして知ろうとしていた。自分で国旗を作る活動から、クラス皆で作る時には何を表現したいかを伝えあいながら役割分担まで行っていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

【にじ組】
子どもの身近な遊びや食べものからの導入ということもあり、子どもから外国について関心を持って活動していた。興味を持つ子どもが保育園での活動をきっかけに、家庭でも調べ、調べたことを友だちに話しながら輪が広がっていた。地球儀や国旗の絵本の用意が良かった。

【そら組】
きっかけが給食の「世界の料理」だったことから、食べ物からの導入で子どもたちも関心を持つ様子が見られた。自分で表現する事が難しい子供もいたが、クラスで一つの作品作りでは、一緒に話し友だちの意見にも耳をかたむけ、賛同したり自分の意見も伝えられたりするようになってきた。

【つき組】
きっかけが給食の「世界の料理」だったことから、食べ物からの導入で子どもたちも関心を持つ様子が見られた。自分で表現する事が難しい子供もいたが、クラスで一つの作品作りでは、一緒に話し友だちの意見にも耳をかたむけ、賛同したり自分の意見も伝えられたりするようになってきた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島8-31-2
施設名	アスク東大島保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

音の鳴る仕組みを知ろう

〈テーマの設定理由〉

行事を経験し、生活の中で物から出る音の違いや、楽器の演奏に興味を持つ様子が見られた。廃材遊びを好んでよく行っているため、自作の楽器を作ってみたい。

2 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。表情などの音のないところから自分たちで音を付け、イメージを音で表現する経験をする。自分の感じたオノマトペと友だちの発見の違いを知る。身近な物から出る音について調べる。身近な物から音を出してみる
音の鳴る仕組み（振動やぶつかる音など）を知る
音の鳴る仕組みを考え、楽器を仕組みごとに分け演奏を楽しむ。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

カードを用いてオノマトペを考え、ゲームにして遊ぶ。
少人数で他の人の意見を聞くことができるよう話せるようサークルになって話し合う。
身近な物から音を探せるような環境構成や音を出しやすい棒などの道具。保育室内に木琴など楽器の配置を行う
スピーカーで音楽を鳴らし、子どもたちが表現活動を楽しめるようにした。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

表情やものカードを用いてオノマトベについて考えた。身の回りのことを名称だけでなく、音やイメージで表現した。戸外や身近な物から出る音を探す活動をした。保育室内や戸外など、身近なところから出る音で探したオノマトベを発表する。自分と友だちが違う表現をしていることに気付く。身近な物から、自ら音を鳴らし、音の違いを感じた。早くたたいたり、細かく鳴らしたりリズムを変えて楽しんでいた。

身近な物から出る音を探し、同じ素材でも扱い方によって出る音が違うことを調べた。それらを用いて、ピアノに合わせて自分なりに演奏し楽しんだ。

音の鳴る仕組みについて、実際に楽器を鳴らしたり、見たりしながら考えた。クイズ形式にすると子どもたちも興味をもち参加し、音の鳴る仕組みについて考え応えることが出来ていた。

楽器の仕組みを考え、実際の楽器を仕組みごとに分けながら自分で楽器を担当し演奏してみた。友だちの出す音に耳を傾け、自分でも音の出し方を大きくしたり早くしたりと工夫しながら演奏を楽しんでいた。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

【そら組】
絵カードを見ながら、名称以外の言葉で伝えようとしていた。難しい様子の子もいたが、友だちの言葉を聞き納得し、そこから自分なりの表現をしてみようとする姿が見られた。身近な物から音を探すと保育室内を色々探し、話しながら音の違いを見つけ、子ども同士で話をしながら楽しんで探そうとする様子が見られた。発表でも強弱をつけたり音の大きさを変えたりして表現する様子も見られた。

音の鳴る仕組みも楽器ごとに違うことを知り、絵を見ながら想像し友だちと話し合いながら確認する様子があった。クイズ形式での活動ということもあり楽しんでいた。

【にじ組】
表情カード同じ絵でも子どもによって様々な表現でオノマトベを付けていた。保育者が、その発見に気づくと「こんな風にも見えるよ！」と違う音で表現したり、「なるほど」と友だちの表現の方法に関心を持って聞いていた。

そこから身の回りの物の音に注目し、音の聞こえ方の違いや扱い方で音が変わってくる様子に気付く、自分で探す様子も見られた。

音の振動について教えてもいい、太鼓の面の振動を触って感じ、のどもにも振動がある事を教えてもらおうと驚きながらも、自分で声の大きさや高低差をつけて話しながら「すごい！」と発見を喜んでた。

【つき組】
絵カードで、自らオノマトベを付けていくことは難しい様子だったが、友だちや保育者が表現している様子を見て、「なるほど」と関心を持つようが見られた。

そこから身の回りの物の音に注目し、「救急車の音がするよ。電車の音だ。葉っぱを踏んでも音がする。」と身の回りの音に敏感になり気付きを報告してくれる姿が見られるようになってきた。

身の回りの音を探す活動は少し難しくなってきたように、楽器を鳴らす子どもが多くなった。そのなかで音の鳴らし方に気付き「優しくたくと…今度は少し強くたたいてみよう。」と試してみる様子があった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

オノマトベという言葉は初めてだったが、すぐに理解し名前以外にも音で表現できることを楽しんで発見していた。友だちと違う表現を探したり、音の違いを共有し合ったりすることも楽しみ、話し合う姿が多く見られた。

クイズ形式にすると子どもたちも興味をもち参加し、音の鳴る仕組みについて考え応えることが出来ていた。

【にじ組】
音の聞こえ方だけでなく、音の振動にも関心を持ち、音の振動の大きさや高さを変えて話し合ったり、音の振動を触って感じる様子も多かった。

【つき組】
改めて音に注目し、身近な物から音を感じるようになってきた。名称以外で表現できることやそれを表現していくことになかなかピンとこない様子の子も多かった。楽器を用いると楽器を鳴らして楽しむ子どもも多く、ピアノに合わせて自分で鳴らして楽しんでいた。活動のきっかけに楽器への関心の深まり、音の鳴る仕組みにも関心を持ち楽器を鳴らすことが出来た。

きっかけ作り次第でその後の活動への高い関心が分かった。子どもたちの興味関心に合わせて活動の調整と、子どもたちの言葉を拾って行く大切さを感じた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島8-31-2
施設名	アスク東大島保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

スポーツ

〈テーマの設定理由〉

運動会に向けた活動を進める中で、得意ことや苦手なことを子ども自身が意識をするようになり、得意なことには意欲を見せるが、苦手なことには後ろ向きになってしまう様子も見られた。得意な子を頼りにしたり、友だちにコツを伝えようとしたりする様子も見られたため、体の動かし方や、運動のコツなどを一緒に考えていきたい。

2 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる
様々な動きを実践し、身体の動かし方のコツについて考える
瞬発力、バランス感覚の動きを実践する。ジャンプの動きについて幅考えながら実践する
「跳ぶ」動きに焦点を当て、高く跳ぶ・遠くに跳ぶときの身体の使い方を考える。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

跳び箱や、縄跳び、タイマーなど子どもがすぐに成果や結果がわかるものを用意できたことを比較できるようにした。
一度経験してから考えてまた挑戦することを繰り返し行い、子ども自身の気付きのきっかけ作りや工夫をしやすようにした。
また、みんなで考えたことを話合う時間を作るようにした。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

様々な単純な動きを繰り返し行い、時間を図ったり友だちと比べながら体の動かし方のコツを考えたり話し合ったりした。普段の保育の中でも同じように身体を動かす時間を作り、実践の中で子ども自身の体の動かし方についての気づきがあった。
遠くにジャンプすることについて考え、少しずつ飛び越える物の幅を広げながら実践してみる。
跳び箱を使って高い所からのジャンプの仕方や高いものの飛び越え方を考えて実践してみる。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

【そら組】
簡単な体の動かし方を考えながら、繰り返し楽しむことで上達していることを子ども自身で気づき喜んでいた。「こうやったらもっとむずかしくなるよ」と、片足立ちから目をつぶってみたり、足を高く上げてみたりと、遊び方を工夫しながら、自分たちでゲーム感覚で楽しんでいた。簡単な動作から自分たちで遊びを見つける姿に驚いた。

【つき組】
跳び箱や、縄跳び、タイマーなど子どもがすぐに成果や結果がわかるものを用意してきたことを比較できるようにした。一度経験してから考えてまた挑戦することを繰り返し行い、子ども自身の気づきのきっかけ作りや工夫をしやすようにした。また、みんなで考えたことを話合う時間を作るようにした。

【にじ組】
簡単な体の動かし方を考えながら、「こうやったらもっとむずかしくなるよ」と、片足立ちから目をつぶってみたり、足を高く上げてみたりと、遊び方を工夫しながら、自分たちでゲーム感覚で楽しんでいた。簡単な動作から自分たちで遊びを見つける姿に驚いた。1人が気づいたコツを友だちに共有したり、友だちの意見を聞きながら活動を進め、できた喜びを共感している様子があった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

一つのきっかけから自分たちで工夫して遊び方を変化させる様子が見られた。
友だちの様子を見て応援したり、真似をしたりして楽しむ様子が見られた。
戸外活動時にジャンプの仕方や早く走る方法などを思い出し実践する様子もあり、子どもの気づきや経験が日常生活に活かされていることを感じた。